

2 上海における中山水兵射殺事件

445 昭和11年1月22日 在上海石射総領事より
広田外務大臣宛(電報)

中山水兵射殺事件の犯人を至急検挙するよう
呉鉄城上海市長へ嚴重申入れについて

上海 発

本省 1月22日夜着

第一八號

客年貴電第二四〇號⁽¹⁾ニ關シ(上海水兵狙撃事件ニ關スル件)

本官二十日吳鐵城ト會談セルカ其ノ要領左ノ通

一、本官ヨリ最近國民政府ノ對日問題措置振、汪精衛狙撃事件及唐有壬暗殺事件乃至最近ノ學生運動等ニ基因シ日本政府ノ對支態度ハ汪院長時代ヨリモ硬化シ來リ本官等ニ對シテモ地方問題措置上嚴重ナル態度ヲ以テ支那側ニ當ルヘキ旨訓令シ來リ居ル次第ナルカ當地方ニ於ケル重要懸案トシテハ越界路問題及水兵射殺事件アリ越界路問題ニ就テノ討議ハ他日ノ機會ニ讓ルコトトスヘキモ水兵事件ニ關シテハ事件發生當時既ニ貴方ニ對シ犯人捜査方嚴

策ニ變更ヲ來スカ如キコトアル筈ナク學生運動ニ至ツテハ華北ニ於ケル大ナル刺激ト左傾分子トノ策動カ其ノ原因ニシテ政府トシテモ一步其ノ對策ヲ誤ラハ忽チ重大ナル結果ヲ招來スヘキヲ慮リ其ノ鎮壓ニハ最苦心ヲ拂ヒ來リタル次第ナリト辯シ

三、次テ更ニ自分ノ上海地方問題處理振ニ付テハ貴官ニ於テモ充分御承知ノ通り常ニ誠意事ニ當リ來リタル次第ニシテ例ヘハ越界路問題ノ如キ眞ニ數十年間ノ懸案ニシテ何人モ爲シ得サリシコトヲ少クモ自分ノ在任中既ニ今一息ノ所迄漕着ケ得タル次第ニテ今後モ引續キ之カ圓滿解決ニ努ムヘキハ勿論水兵問題ニ付テハ自分ニ於テモ當初ヨリ誠心誠意犯人ノ檢舉ニ努メ來リタルカ手懸リ全クナキ爲捜査非常ニ困難ニシテ未タ犯人逮捕ヲ爲シ得サルハ自分トシテモ頗ル遺憾ニシテ支那側今日迄ノ捜査狀況等ニ關シテハ近ク係員ヲ貴館ニ派シ事情詳細説明スヘシト述ヘタリ

四、依テ本官ヨリ日支間ノ問題ハ個々ノ問題カ集リテ整個ノ問題トナル次第ニシテ個々ノ問題ト整個ノ問題トハ不可分ノ關係ニアルモノナルニ蔣院長トナリテヨリ支那側カ

重申入レ置キタル處今日迄未タ犯人ノ逮捕ヲ見サルハ甚タ遺憾ニシテ當方ニ於テモ出先海軍當局ト協力シ犯人ハ支那人ナリトノ嫌疑ノ下ニ銳意之カ捜査ヲ續ケ來リタル結果最近ニ至リ捜査ノ範圍ヲ漸次縮小スルヲ得ルニ至リ近ク手懸リヲ擱ミ得ルヤモ知レサル處右犯人カ果シテ支那人ナリシ場合之ヲ支那側ニ於テ逮捕シ得スシテ却テ日本側ノ手ニテ突止メ得タル場合ニハ新タナル責任問題ヲモ生スヘキニ付貴方ニ於テモ至急本件犯人ノ檢舉ヲ見ル様努力アリ度シト述ヘタリ

二、之ニ對シ吳ハ日本政府ハ最近ノ南京政府ノ態度ニ嫌ラス對支政策ヲ硬化セリトノ御話ナルカ汪院長時代ニハ時間ノ餘裕ナク且時期未タ熟セサリシ關係上單ニ目前ニ現ハレタル個々ノ問題ノミヲ處理シ來リタルニ反シ蔣院長トナリテハ時期漸ク熟シ來リタルヲ以テ先ツ日支間ノ整個ノ問題ニ付日本トノ間ニ具體的討議ヲ進メントシ居ルモノニシテ支那ノ對日根本方針ハ兩者間ニ何等變更アリタル次第ニアラサルコトハ地方官乍ラ自分モ充分知リ居ル所ナリ又汪精衛及唐有壬ノ暗殺ハ南京政府政敵ノ仕業ニシテ右事情カ日支關係ニ影響シ若ハ之カ爲國府ノ對日政

整個問題解決ニ藉口シ目前幾多ノ重要問題解決ヲ遷延セントスル傾向アルコトカ日本側トシテ最不滿トスル所ニシテ又汪院長ノ狙撃ハ或ハ政敵ノ仕業ナリト謂フヲ得ヘキモ唐有壬ニ至リテハ同人カ外交部次長トシテ對日問題ニ積極的ニ努力セルコト今回ノ厄ニ遭ヘル原因ナルコト否ム能ハサル所ナルヘク又學生運動モ表面巧ニ「カモフラージ」シ居ルモ右運動ノ裏面ニ漲ル精神ハ明カニ排日運動ナルコト等何レモ日本側トシテ不滿ヲ感シ居ル次第ナリト應酬シタル上我方ノ態度ノ嚴重ナルコトヲ再言シ水兵事件ニ付テモ容易ナラサル事態トナルコトアルヘキ旨匂ハセタルニ吳ハ甘言ヲ以テ其ノ場脫レヲ爲スハ支那人ノ通弊ナリト謂ハレ居ルモ少クトモ自分ハ誠意ヲ以テ事ニ當ルモノニシテ口先許リノコトハ決シテ言ハスト答ヘタリ

五、昨二十一日王長春ヨリノ内報ニ依レハ吳ハ右本官トノ會談模様ヲ直ニ南京ニ報告シタル由ナリ

支ヘ轉報シ北平、南京、天津、漢口、廣東ヘ轉電セリ

編注 『日本外交文書』昭和期Ⅱ第一部第四卷第218文書。

446 昭和11年 4月16日 在上海石射總領事より
有田外務大臣宛(電報)

中山事件の容疑者逮捕について

上海 4月16日後発
本省 4月16日夜着

第一二〇號?(極秘)

往電第八號ニ關シ

中山水兵狙撃事件ノ犯人ニ付テハ豫テ當地海軍側及工部局日本人會ト緊密聯絡極秘裡ニ捜査中ノ處最近ニ至リ本件ハ抗日團體ヲ背累トスル支那人葉海生(目下青島ニ潛伏中)及鮮人韓奇良ノ所爲ナルヤノ嫌疑濃厚トナリタルニ付去ル九日工部局ニ葉ノ逮捕取調方要求ノ結果令狀ノ發給ヲ受ケ同局警察官二名及當館佐藤警部補ヲ青島ニ派遣シ同地總領事館ノ協力ヲ得テ昨夜葉ヲ逮捕シタリ當地ニ於ケル他ノ關係支那人ニ對シテハ目下工部局ニ於テ極力捜査中ナリ尙前記韓ハ當館ニ於テ既ニ逮捕取調中ナルモ一切ヲ否認シ居レリ委細郵報ス

支ヘ轉報シ青島ヘ轉電セリ

~~~~~

447 昭和11年 4月(8)日 在青島西総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件容疑者の逮捕状況につき報告

青島 発  
本省 4月18日夜着

第七九號(極秘)

客年十一月上海ニ起レル中山水兵射殺事件ニ關シ本月十二日上海駐在沖野海軍武官ト共ニ上海工部局中村警部補及田中巡查部長(特別政治警察部勤務)突如來青シ本件ノ迷宮人トナリタル後工部局ノ數名ノ日本人職員、陸戰隊、駐在武官、總領事館警察ニ於テハ事件カ痴情、怨恨ニ基クモノニアラスシテ何等政治的背景ヲ有スルモノトノ見込ニテ極力捜査セル處四月上旬ニ至リ本件ハ三合會ノ仕業ニシテ其ノ直接犯人ハ同會員廣東人葉海生ナルコトノ略確證ヲ得タルカ同人ハ目下青島ニ潛伏シ居ルニ付不取敢工部局「ゼラー」總監ノ了解ヲ得テ葉ノ逮捕ニ來青シタル次第ナルカ先ツ本人ノ居所ヲ突止メ次第之ヲ工部局ニ電報スルト同時ニ同局ヨリ支那側法院ニ交渉シ殺人被疑者トシテ葉逮捕ノ令狀ヲ發セシムルコトニ手筈ヲ決定シ居ルニ付當館ノ援助ヲ

三、中国における邦人遭難事件

得度キ旨申出テ且大要右ノ次第ヲ記述セル本官宛上田領事ノ紹介狀ヲ持參セリ

仍テ本官ニ於テハ本件援助協力ノ參考迄ニ一應石射總領事ノ意見ヲ求ムルコトトシタルカ一方一行三名ハ當地駐在田尻海軍武官ヲ加ヘ單獨ニテ被疑者ノ所在捜査ニ當リ十三日夜半ニ至リ本人カ「ビエナ」ト稱スル「ダンスホール」ニ「マネージャー」トシテ住込ミ居ルヲ確メ直ニ其ノ旨「ゼラー」總監ニ打電セリ前記本官問合ニ對シテハ石射總領事ヨリ上田領事申出ノ通りナルニ付能フ限り援助協力アリ度キ旨並ニ事情説明ノ爲佐藤警部補ヲ赴青セシムヘキ旨ノ回電アルト同時ニ在上海海軍武官ヨリ當地田尻武官宛佐藤警部補ニ令狀ヲ託送セラレタル旨ノ入電アリタルニ付右令狀到着ヲ待チ實行ニ移ルコトトシ十四日ハ葉ノ身邊ヲ見張ルニ止メ置ケリ

<sup>(3)</sup>十五日佐藤警部補ノ來青ヲ待チ葉ノ逮捕方ニ付一同協議ノ結果

(イ)葉ノ所在ヲ見張り乍ラ(當地海軍武官ノ關係者ニ於テ)中村ヨリ當地公安局長ニ令狀ヲ示シ葉ノ逮捕ヲ要求シ(令狀ニハ現ニ當地公安局ニ逮捕中ノ殺人被疑者葉某ヲ上海

ヨリ派遣ノ刑事ニ引渡サレ度キ旨記載シアルニ依リ「現ニ逮捕中」ノ點ハ電報打合不充分ナリシ旨ヲ適宜説明スルコトトシ尙事件ノ内容ハ記載無キニ付支那側ニハ差當リ之ヲ明示セサルコト)其ノ際當館警察署長ニ於テ中村ヲ局長ニ紹介スル名目ノ下ニ交渉ニ立會フコト

(ロ)逮捕後ハ令狀ノ趣旨ニ從ヒ即時引渡ヲ要求スルコト

(ハ)支那側カ即時逮捕又ハ引渡要求ニ應セサル時ハ已ムヲ得ス本件ノ内容ヲ明示シテ要求ニ應セサルコトヨリ生スルコトアルヘキ支那側ノ責任ニ付説示シ當館及海軍武官モ側面ヨリ之ヲ説得スルコト若シ右ニテモ應セサル時ハ或程度ノ實力ノ實行モ已ムヲ得サルヘキコトニ打合セタリ

<sup>(4)</sup>斯クテ十五日夜十時葉カ「ダンスホール」ニ現レタルヲ見定メ中村ハ白神署長ノ紹介ニテ公安局ニ於テ局長ニ面會(イ)ノ通り要求セル處局長ハ簡單ニ引受ケ直ニ現場ニ派員シ中村ノ指示セル葉ヲ逮捕シタルカ公安局ニ引揚ケタル後引渡ニ關シ難色ヲ示セル趣ニテ武官側ノ依頼ニ依リ當館員同武官ト共ニ公安局ニ赴キ中村ノ身分ヲ證明シタルカ局長ハコダワリ無ク引渡ヲ承認シ中村ハ十二時頃葉ト共ニ公安局ヲ引揚ケタルカ中村ヨリノ依頼ニ依リ一時當館留置場ニ葉ノ

第<sup>⑧</sup>八〇號(極秘)

往電第七九號ニ關シ

葉<sup>⑧</sup>ノ逮捕方ニ付テハ之ヲ事前ニ支那側ニ通スルニ於テハ逃亡ノ惧アル爲

(イ)同人ヲ「キツドナップ」シテ上海租界迄極秘裡ニ送届ケルカ

(ロ)邦人家屋ニ誘出シ我方ニ於テ逮捕ノ上支那側ニ引渡ス等ノ方法モ研究シタルカ十五日上海總領事館佐藤警部補着青後當館員ノミニテ同人ヨリ事情聴取ノ結果葉ヲ直ニ眞犯人ト斷定スルニハ尙證據薄弱ニシテ從テ當館ニ於テ逮捕ニ積極的援助ヲ爲スコト相當困難ト認メラレ且既ニ上海法院ノ令狀モ發出セラレタルヲ以テ公然且疾風迅雷的ニ支那側ニ逮捕要求ノ舉ニ出ツルコト適當ト思考シ支那側ニ對シテハ成ルヘク當館ノ立場ヲ「コムミット」セサル様協力スル趣旨ニテ冒頭往電ノ通り措置シタル次第ナリ御了知置請フ支、南京、北平ニ轉電セリ  
支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

身柄ヲ預カルコトセリ(此ノ點其ノ後支那側ニモ説明済)  
翌十六日公安局ヨリ當館警察署ニ對シ一應葉ヲ取調フル必要アルニ付暫時其ノ身柄ヲ引受ケ且事件ノ内容ヲ指示セラレ度キ旨申シ來レルニ付署長ヨリ當館ハ一切本件ニ關係無ク單ニ日本人タル中村ノ身分ヲ立證セルニ止マルヲ以テ一切ノ交渉ハ中村ト爲サレ度シト撥付ケシメ置キタルニ公安局ハ更ニ中村ニ對シ同様ノ交渉ヲ爲シタルモ中村モ之ヲ拒絶セル由  
尙葉ハ中村等ニ於テ十九日當地發奉天丸ニテ上海ニ護送スル豫定ナルカ其ノ際公安局員同行ノ趣ナリ  
本件今後ノ發展ハ豫測シ得サルモ問題ノ性質ニ鑑ミ長文ヲ顧ミス報告ス尙本件ハ差當リ外部ニ發表セサルコトト致度シ  
支、南京、北平ヘ轉電セリ

448 昭和11年4月19日 在青島西總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件の容疑者逮捕に際しての青島總領事館の立場について

449 昭和11年4月30日 在上海石射總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件の物的証拠を市長に示し被疑者の釈放等事件解決を妨げるような措置なきよう申入れについて

上 海 発  
本 省 4月30日後着

第<sup>⑨</sup>一四八號(大至急、極秘)  
(1) 南京宛往電第三三號ニ關シ

青島ニ於テ逮捕セル被疑者葉海生ノ外同シク三合會ニ屬スル廣東人楊文道(及其ノ用心棒某)モ本件ニ關係アリトノ情報ヲ得タル工部局ハ去ル十九日右二人ヲモ逮捕シタル上更ニ取調ノ爲右三人ノ身柄ヲ工部局ニ拘束方ヲ特區法院ニ申請シ五月一日同法院ニ於テ第三回目ノ證據調ヲ爲スコトナリ居ル處支那側ハ事重大ト見テ(支那紙及英字紙ハ連日大見出ノ下ニ虛實取交セ本件ヲ掲載シ居レリ)右犯人等ノ取調ヲ有耶無耶裡ニ片付ケント工作シ居ル様子故或ハ五月一日ノ法廷ハ證據不充分等ノ理由ニテ之レ以上ノ身柄拘束必要無シトノ決定ヲ爲スヤモ測ラレス然ルニ工部局ハ前記

揭文道逮捕ト同時ニ其ノ家宅ヲ搜索ノ結果本人居宅ヨリ「ピストル」型二頁ヲ剝キタル書籍ヲ發見押收シ

科學的鑑定ノ結果中山殺ノ拳銃ト「マーク」凹凸等ノ特徴全然符合スル印象カ「ページ」ニ残り居ルコトヲ發見シ茲ニ有力ナル物的證據ヲ得タリ(葉海生ノ本件干與ニ付テハ證人アルモ葉本人ハ言ヲ左右ニ托シテ書籍内ニ存セル拳銃ノ行衛ヲ胡魔化サント爲シ居レリ)仍テ本官ハ右鑑定ノ結果ヲ工部局「ジエラード」警視總監ヨリ書面ニテ取付ケタル上二十九日附吳市長宛ニ右有力ナル證據發見ノ次第及葉海生殊ニ楊文道力之ニ依テ本件ノ重大ナル關係者タルコト明瞭トナレルコトヲ指摘シ支那側ニ於テモ誠意ヲ以テ飽迄事件ヲ糾明セラレ度ク若シ故意ニ被疑者等ヲ釋放シ爲ニ本件ノ解決カ有耶無耶ニナル如キコトアリテハ貴我ノ關係カ紛糾重大化スヘキ旨書面ヲ以テ釘ヲ差シ置キタリ(就テハ南京ニ於テモ須磨總領事ヨリ同様支那側ニ警告ヲ與ヘ置カル様致度シ)當地海軍側ト話濟  
支ヘ轉報シ南京、青島ヘ轉電セリ

450 昭和11年5月(1)日 在上海石射総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件に関し被疑者の犯行自白、被疑者起  
訴および第一回公判について

上海 発

本省 5月1日夜着

第一五一號

往電第一四八號ニ關シ

四月廿八日夜葉海生ハ工部局警察ノ取調ニ於テ自分(葉)ト楊文道及「ジャック」コト韓。奇。良。カ本件犯罪現場ニ赴キ楊カ中山兵曹ヲ狙撃セル旨自白セルヲ以テ工部局側ニ於テハ楊ヲ殺人罪トシ葉ヲ殺人幫助及教唆トシテ法院ニ起訴シ本一日第一回公判アリタルカ葉ハ公判廷ニ於テ右自白ノ通り陳述シ楊ハ全部之ヲ否認セリ第二回公判ハ來ル六日ノ筈尙當方ニ於テハ前電ノ通り本件搜索ニ關スル一切ノ事項ハ記事掲載及通信ヲ禁止シ居リタル處本日附ヲ以テ公開ノ法廷ニ現レタル事項及當館ノ供給スル事項ニ限り之ヲ解除シ尙背後關係其ノ他ニ關シ臆説ニ亘リ又ハ矯激ナル記事及搜索上ノ障碍トナルヘキ記事ハ之カ掲載並ニ通信ヲ禁止ノ儘

452 昭和11年5月7日 在上海石射総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件に関し容疑者と陳銘樞らの關係糾明の  
ため証拠収集に協力方關係公館へ要請について

別 電 昭和十一年五月七日着在上海石射総領事より

有田外務大臣宛第一六一號

右關係に関する工部局調査

上海 5月7日後発

本省 5月7日夜着

第一六〇號(極秘)

本官發福州、香港宛電報

合第六八號

客年本官發大臣宛往電第三六三號ニ關シ

中山水兵暗殺事件ニ關シテハ其ノ後今日迄工部局警察、海軍側及當館警察等ニ於テ銳意犯人ノ搜查ヲ續行シ來リタル結果最近漸ク有力嫌疑者廣東人楊文道及葉海生ノ兩名ヲ逮捕スルコトヲ得目下楊及葉ハ工部局ヨリ當地第一特區法院ニ起訴シ折角審理進行中ナルカ我方ニ於テハ直接犯人ノ決定ト共ニ犯行ノ動機並ニ背後關係等ヲ明白ニスルコトニ最

トセリ

冒頭往電ノ通り轉電セリ

451 昭和11年5月6日 在上海石射総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件第二回公判について

上海 5月6日後発

本省 5月6日夜着

第一五七號

中山水兵暗殺事件第二回公判ハ本六日午後二時行ハレタルカ楊文道ハ依然犯行ヲ否認シ居タルモ葉海生ハ前回迄ノ供述ヲ翻シ犯行ハ全部自分一人ニテ行ヒタルモノニシテ楊文道及「ジャック」等ハ何等本件ニ關係無キ旨申立テ又被告側辯護人ハ本件ハ初ヨリ關係證人等カ懸賞金等ヲ得ル目的ヲ以テ捏造セル虚構ノ事實ナリトテ之ヲ立證スヘク張。琛。ナル者ヲ證人トシテ法廷ニ立タシメ供述ヲ爲サシメタルカ結局審理未了ノ故ヲ以テ更ニ二週間延期シ本月二十日引續キ第三回審理ヲ行フコトナレリ

南京、青島へ轉電シ支へ轉報セリ

重點ヲ置キ居ル次第ナルカ本件犯行ノ動機等ニ付工部局側ニ於テハ今日迄ノ調査並ニ其ノ得タル證據等ヲ綜合シ大體本件暗殺ハ陳銘樞、蔡廷楷等反中央派カ中央ノ對ノ關係ヲ惡化セシムル目的ヲ以テ陳、蔡兩名ト關係深キ楊文道ニ密令シ楊ハ更ニ其ノ部下葉海生ヲシテ行ハシメタルモノニアラスヤト推斷シ居ル處右經緯ヲ立證スヘキ工部局側材料ハ未タ充分ナラサル憾アリ當方ニ於テハ目下極力之カ證據蒐集ニ努メ居ル次第ナルニ付テハ貴館ニ於テモ別電合第六九號工部局側調査ノ貴地ニ於ケル楊文道ノ行動並ニ同人ト陳銘樞、蔡廷楷等ノ關係等參照ノ上右事實ニ關シ出來得ル限リ詳細御内查相成リ又證據トナルヘキ事實、寫眞、文獻等蒐集方御配慮相煩度シ

別電ト共ニ支へ轉報シ大臣、厦門、廣東、南京、青島へ轉電セリ

(別 電)

上海 発

本省 5月7日夜着

第一六一號(極秘)

<sup>(1)</sup> 本官發福州、香港宛電報  
合第六九號

「楊文道ハ當地廣東人洪順會會長ナリシカ（葉海生ハ該會會員）滿洲事變勃發ト共ニ「文道隊」ナル抗日決死隊ヲ組織シ東北義勇軍第五十五軍少將兼參議ノ稱號ヲ得タリ又上海事變當時ニハ蔡廷楷ニ接近シ抗日策動ニ與リ諮議ノ職ニ就キ且汪精衛暗殺團首領王亞樵等トモ知合トナリタル形跡アリ

ニ然ルニ楊文道ハ洪順會會長並ニ前記抗日團團長タル地位ヲ利用シ多額ノ金額ヲ橫領シタル形跡アリ右不正金ノ分配問題ニ關シ洪順會會員中ニ楊排斥ノ運動起リタル爲楊ハ昭和七年十二月同會ノ公金ヲ拐帶シ上海ヨリ福州ニ逃レ陳銘樞、蔡廷楷ノ福建革命ニ參畫シ革命失敗ニ終ルヤ一味ト共ニ香港ニ亡命セリ

三、楊ニ對シテハ福建革命參加者トシテ蔣介石ヨリ逮捕令發出セラレ居タル關係上楊ハ其ノ後昭和九年十一月末迄香港蟄居ヲ餘儀ナクセラレ居タルカ其ノ間歐洲漫遊ヲ終ヘテ香港ニ歸來セル蔡廷楷ト面接シ反蔣、反南京運動ニ參畫セル形跡アリタルカ一方在上海廣東人有力者ヨリ楊ノ

往電第一五七號ニ關シ

中山水兵事件第三回公判ハ本二十日午後二時特區法院ニ於テ開廷セラレ工部局ハ楊文道、葉海生ノ自白ニ基キ今回更ニ楊文道ノ部下同仁會會員周社榮ナル者ヲ本件共犯者トシテ起訴シ一併審理ヲ行ヒタルカ楊文道及周社榮ハ本件ニ關係セルコトヲ全然否認シ葉海生ハ今回ハ楊文道、周社榮、「ジャック」並ニ姓名不明ノ朝鮮人ト葉海生自身トカ本件暗殺ヲ計劃シ鐵引ノ結果葉海生カ暗殺ヲ擔當スルコトトナリ十一月九日夜途中ニテ楊文道ヨリ拳銃ヲ渡サレ中山射殺ヲ行ヘルモノナルコト及本件ハ元日本陸戰隊長官ヲ暗殺シ之ニ依リ虹口一帶ヲ擾亂ニ陥レ以テ同仁會ノ勢力擴大ヲ企圖セルモノナルカ同夜偶々日本海軍長官見當ラサリシ爲該中山ヲ暗殺セルモノナルコトヲ申立テタル處裁判官ハ葉海生ノ自白力前一同ノ公判ト相違セル點ニ付種々訊問セリ又被告辯護士ヨリ他ノ證人訊問方請求アリタル處裁判官ハ本件ハ事情複雑ナルカ本件犯行ヲ行ヘリト稱スル葉海生ノ自供並ニ該暗殺ニ使用セラレタル拳銃カ楊文道所持ノ書物内ニ隱匿セラレ居タルコト大體明カトナリ居ルニ付右二點ニ關スル反證以外ハ本件ニ直接關係ナシトテ之ヲ

助命運動行ハレタル結果九年十一月逮捕令ノ取消ヲ見ルニ至リタルヲ以テ再ヒ上海ニ舞戻リタルカ裏面ニ於テハ依然陳、蔡兩名ト結ヒ反蔣反中央運動ヲ繼續シ來リ同人歸滬ニ際シテハ蔡等ノ主宰スル致公黨擴大ノ秘密使命ヲ帶ヒ多額ノ資金ヲ持歸リタル由ナリ

四、楊ハ上海ニ歸來後新タニ同仁會ヲ組織シ陳及蔡ト秘密聯絡ヲ保チ蔣、汪暗殺計畫ヲ進ムルト共ニ客年三月同仁會中ノ腹心三十名ヲ選ニ別ニ同義社ヲ組織シ汪、蔣暗殺計畫ト併行シ日支政治關係ヲ惡化セシムル目的ヲ以テ日本海軍軍人暗殺ヲ計畫シ同年十月以降屢次會合セル事實アリ

（轉電先脫？）

453 昭和11年5月20日 在上海石射總領事より  
有田外務大臣宛（電報）

中山事件第三回公判について

上海 5月20日後発  
本省 5月20日夜着  
第一八六號

斥ケ結局二十二日ニ犯行現場ノ實地檢證ヲ行ヒ二十七日更ニ審理ヲ續行スルコトナレリ  
支ヘ轉報シ南京、青島、福州、厦門、廣東ヘ轉電セリ  
廣東ヨリ香港ヘ轉報アリタシ

454 昭和11年5月25日 在福州中村總領事より  
有田外務大臣宛（電報）

中山事件の容疑者と陳銘樞との關係に関する

情報について

福州 5月25日後発  
本省 5月25日夜着

第七六號（至急、極秘）

本官發上海宛電報

第五號

貴電第二號ニ關シ

林知淵（現福建省政府委員ニシテ十九路軍時代ニモ省政府委員タリシコトアリ）ニ寫眞及人相書等ヲ示シ當時楊文道ニ付何等聞知セルコトナカリシヤト問ヒタル處林ハ出所ヲ絶對秘密トシテ陳銘樞ハ當時多數ノ食客ヲ政府ト別ニ個人

ヲ以テ養ヒ居リシ事實アリ自分ノ記憶モ確ナラサルカ當時  
戴。戟。ヨリ陳銘樞ノ食客中ニ青。紅。幫。ノ殺人専門家王亞樵ト他  
ニ安徽人一名アリト聞キタルカ其ノ一名カ楊文道ニアラス  
ヤト察セラルル節アリ王ハ屢福州ニ來リ自分モ面識アルモ  
楊トハ面會セルコトナシ楊ハ多ク廈門ニアリ師長黃。強。ノ下  
ニテ活動シツツアリシコトヲ聞知セリト述ヘタリ  
尙當館警察署員及諜者ヲシテ十九路軍時代ノ殘黨ニ付極力  
調査中ナルモ本件ハ最近當地ニ於テ發覺セル中華民族革命  
同盟ノ日支要人暗殺未遂事件(本官發大臣宛電報第七二號)  
ト遣口カ頗ル類似セルモノト認メラル  
上海ヨリ支ヘ轉報アリタシ  
廣東ヨリ香港ヘ轉報アリタシ

455 昭和11年5月27日 在上海石射總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件第四回公判において被告がこれまで  
の自白を全面否定し無罪主張について

上海 5月27日後発  
本省 5月27日夜着

456 昭和11年6月3日 在上海石射總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件に關し海軍側が示した対中要求事項  
案について

上海 6月3日後発  
本省 6月3日夜着

第二〇三號(極秘)  
水兵事件ニ關シ

一 累次往電ノ如ク葉海生ハ公判ノ都度供述ヲ翻シ居リ楊文  
道ハ知ラヌ存セヌノ一點張ニテ事件ノ真相ハ猶明カナラ  
ス法院カ如何ニ之ヲ處斷スルヤ問題ナルモ被告側ニ於テ  
拳銃ノ痕アル書物ニ關シ有力ナル反證ヲ擧ケ得サル限り  
被告兩名ノ有罪ハ真相ノ如何ニ拘ラス結局遁レヌ所ナル  
ヘシト豫想セラルル處本件ニ付外交交渉ヲ爲ストシテ其  
ノ要求事項竝ニ時期ヲ如何ニ決定スヘキカハ慎重攻究ヲ  
要スヘク其ノ決定次第ニテハ由々シキ事件ニ迄發展スヘ  
シト思ハル

當地海軍側各機關ハ先般協議ノ上逸早く要求事項ヲ内定  
シ既ニ中央ニ打電セル趣ナリシニ付參謀長會議ノ爲歸朝

第一九一號  
往電第一八六號ニ關シ

水兵事件第四回公判ハ本二十七日行ハレタル處葉海生ハ裁  
判官ヨリ二十二日行ハレタル犯行現場ノ實地檢證調査(當  
時葉海生ハ全部犯行ヲ自白シ且犯行動作ヲ實演シ見セタリ)  
ヲ讀ミ聞カセタルニ對シ自分ノ自白ハ工部局警察ノ拷問ニ  
依リ苦痛ニ堪ヘス爲セルモノニシテ總テ眞實ニアラス實際  
ハ本件暗殺事件ハ全然知ラストテ又復從前ノ自白ヲ全部否  
認シタルカ裁判官ハ何等カ物的乃至人的ノ反證ヲ擧ケ得ル  
ニアラサレハ俄ニ信用シ難シトテ之ヲ取上ケサリシ處葉海  
生辯護人ヨリ葉海生ハ工部局側ノ拷問ニ依リ心身極度ニ衰  
弱シ居リ精神錯亂ノ結果度々曖昧ノ答辯ヲ爲シ居ルモノト  
認メラルルニ付一應醫師ノ診斷ヲ爲サシメラレ度シト要求  
シ裁判官之ヲ許容シ葉海生ハ直ニ法。醫。ノ診斷ヲ受ケシメ其  
ノ結果ニ依リ更ニ審理ヲ續行スルコトナリ次回公判ハ來  
月三日開廷ノ筈  
尙楊文道ハ相變ラス犯行ヲ否認シ居レリ  
冒頭往電ノ通り轉電、轉報セリ

ノ三艦隊岩村少將ノ出發ニ先チ海軍側ヨリ同少將、佐藤  
武官、近藤陸戰隊司令官等外務側ヨリ若杉參事官、堀内  
書記官竝ニ本官、杉原領事等出席會同シ一應意見ノ交換  
ヲ爲セリ

二 右海軍側内定ノ要求事項ハ左ノ如シ

(一) 支那側ノ陳謝

(二) 責任者ノ處分

(三) 犯人及連累者ノ嚴罰

(四) 北部越界路區ノ擴張(本官カ最初試案トシテ支那側ニ  
提示シタル地域迄ノ擴張一昨年往電第三九五號參照)

(五) 前項ニ關聯シ越界路區警察ノ Deputy Commissioner ニ  
日本人一名ヲ加フルコト及其ノ他日本人警察官ヲ増加  
スルコト

(六) 前二項ニ關聯シ越界路區ニ於ケル陸戰隊巡邏等ノ行動  
ヲ認メシムルコト

(七) 排日取締ノ勵行

(八) 慰藉料

三 右要求事項案中

(一) ハ吳市長ヨリ本官ニ對シ書面ヲ以テ遺憾ノ意ヲ表セシ

ムルコトニ意見一致ス

(二)ハ海軍側ニテハ現公安局長並ニ閩北分局長ヲ責任者トシテ罷免ヲ要求シ度シトノコトナルモ本官ヨリ事容易ナラサルニ付猶攻究ノ必要アルコトヲ述ヘ結論ニ達セス

(三)ハ判決前ニ於テ他ノ事項ヨリ切離シテ支那側ニ申入レ然ルヘシト一致ス

(四)及(五)ハ本官ヨリ越界路問題ニ關スル從來ノ交渉ノ経緯ヲ説明シ之ヲ支那側ニ持出スコトノ困難及持出シテモ支那側力受諾セサルヘシトノ觀測ヲ述ヘ結局支那側力聽入レヌ場合ニ執ルヘキ手段ヲモ豫定シテ掛カル必要ニ鑑ミ外務側ハ贊成ヲ留保セリ

(六)此ノ點モ結論ニ至ラス

(七)ハ會同ノ際追加セラレタルモノニシテ雙方異論ナシ

(八)ハ海軍側トシテモ猶研究中ノ由本官ヨリハ提出セサル方可ナリトノ意見ヲ述フ

以上ニ關シ會同ノ際述ヘタル本官ノ意見及其ノ後考量ノ結果得タル卑見追電ス

支ヘ轉報シ、北平、南京、青島ヘ轉電セリ

458

昭和11年6月5日

在上海石射總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件に關し海軍側が示した対中要求事項  
案につき意見具申

上海 6月5日後発  
本省 6月5日夜着

第二〇九號(極秘)

往電第二〇三號ニ關シ左ノ通り追電ス

一、要求事項案

(一)ハ犯罪ハ工部局越界路上ニ於テ行ハレタルモノトハ言ヘ被告葉海生ノ言フカ如ク特ニ我海軍軍人ヲ目的トセルモノナルニ於テハ私怨又ハ物取ノ殺人ノ如キ普通ノ警察事故トハ異リタル重要意義ヲ有スルモノナルヲ以テ支那ニ於ケル慣行ノ事例ヨリ見テ事件全體ニ對シ吳市長ノ文書ニ依ル遺憾表示ハ異トスルニ足ラサルヘシ

(二)公安局長及閩北分局長ノ罷免要求ノ根據ハ海軍側ハ主トシテ

(イ)本計畫力越界路外支那警察管内ニ於テ密議サレタルコト(其ノ後調査シタル所ニ依レハ葉海生力計畫場

457

昭和11年6月3日

在上海石射總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件第五回公判について

上海 6月3日後発  
本省 6月3日夜着

第二〇五號

往電第一九一號ニ關シ

中山水兵事件第五回公判ハ本三日午後開廷セラレ工部局ヨリ前回公判ニ於テ葉海生カ工部局ノ拷問ヲ受ケ虚偽ノ自白ヲ爲シタルモノナリト供述セル點ニ關シテハ法醫診斷ノ結果右葉海生ノ供述ハ事實ニ非ス其ノ健康上ニハ別ニ異狀ナキコト判明シタル旨報告アリタルカ裁判官ハ工部局側蒐集ノ證據品タル拳銃及彈丸カ果シテ本件犯行ニ用ヒラレタルモノナルヤ否ヤ及楊文道ノ家ヨリ發見セラレタル書籍カ果シテ本件ニ使用セル拳銃ヲ隱匿シ居リタルモノナルヤ否ヤニ關シ工部局トハ別ニ法院所屬法醫研究所ヲシテ研究セシメ居ル處未タ其ノ回答ニ接セサルニ付右判明スル迄本件審理ヲ無期延期スヘシト宣告シ何等進展ヲ見スシテ閉廷セリ冒頭往電ノ通り轉電、轉報セリ

所トシテ供述シ居ル同義社ハ當時租界内ニアリタリ

(イ)犯行後犯人搜查及證據蒐集等ニ付支那側治安責任者カ熱意ヲ示ササルコト(支那側警察カ犯人檢舉上果シテ努力シタルヤハ疑問ナリ)

ニ置クモノナルカ現公安局長ハ平素特ニ我方ニ接近シ居ル人物ニハアラサルモ左リトテ反日的傾向ヲ表現シタルコトモナク又閩北分局長ハ横濱育チノ日本通ニシテ吳市長ノ眼鏡ニ依リ特ニ日本人トノ交渉多キ閩北ニ配セラレ在留官民共親密ナル關係ヲ持續シ居レリ

(ロ)公安局長ト共ニ當地警察界ノ主要人物ナルヲ以テ是等ノ人ノ免職要求ハ支那側官民ニ大衝動ヲ與ヘ彌カ上ニ空氣ヲ惡化スヘシ左リトテ此ノ二人ヲ不問ニ附スルハ面白カラサルニ付兩人ニ付テハ自身當館及海軍側ニ來リ陳謝セシメ其ノ節油ヲ搾ル程度ニ止ムルヲ可トス

(三)ハ今後公判發展ノ過程中本官ヨリ吳市長ニ嚴重申入ルルコトトスヘシ

ニ、要求事項案四、(五)、(六)ニ付テハ海軍側ノ理由トスル所ハ日本人ノ工場、墓地等カ現存シ將來我方ノ發展スヘキ北部越界路外地域ノ治安維持機關ヲ一元化スル必要アリト

スル外此ノ地域ニ海軍ノ進出權ヲ得テ有事ノ際ニ備ヘン  
トスル底意ナリ

越界路ニ關スル交渉ハ御承知ノ通り正面的ニハ市政府、  
工部局間ノ問題ニシテ本官ハ我方ノ希望ヲ側面的ニ持出  
シ本官ヨリ先ツ工部局及英總領事ニ渡リテ着合意成リ  
タルモノヲ工部局ヨリ支那側ニ交渉シ本官之ヲ側面ヨリ  
支那側ヲ説クト言フ遣方ニテ地域、人事ニ付テハ本官、  
英總領事、工部局間ニ幾多ノ曲折ヲ經タル上

累次往電ノ如ク既ニ合意成リ支那側モ亦大體之ヲ承諾濟  
ニシテ目下殘ル問題ハ北部電話ノ調節ノミナリ此ノ電話  
問題ニ關シテモ工部局側ハ迷惑ナル提案ト爲シ本官力次々  
ト新問題ヲ附加フルヲ不快カリタルモ之サヘ片着ケハ日  
本側トシテハ從來合意セル所ニ依リ越界路協定調印ニ異  
議ナク之以上新問題ヲ提起セスト説明シテ納得セシメタ  
ル次第アリ然ルニ水兵事件發生ノ爲トハ言ヘ四、(五)ノ如  
キ新問題ヲ提起シテ工部局ノ越界路協商ヲ紛糾セシムル  
コトハ支那側ニ對シテハ兎モ角英國側及工部局ニ對シ我  
方ノ不信ヲ披露ニ及フモノニシテ甚タ不利ナルノミナラ  
ス元々工部局力越界路解決ヲ急キ居ルハ稅收少キ越界路

那側力承諾セサルハ西部ニ於テ工部局側力地域ヲ讓リタ  
ルカ爲ナルハ御承知ノ通ニシテ市政府ハ市民ニ對シ之ヲ  
以テ面目ヲ立テントスルモノナリ其ノ場合我方ハ實力  
ヲ以テ突き進ムコトノ大局上ノ利害得失ハ自ラ明カナル  
ヘク若シ支那側力捨鉢的態度ニ出ツルニ於テハ支那全局  
ニ亘ツテ日支關係ノ逆轉破綻ヲ招來スルヤモ測ラレスト  
思考ス故ニ本官ノ意見ニテハ本要求ヲ越界路問題トハ無  
關係ニシ左ノ如ク緩和スルヲ可ナリト思考ス  
(一)聞北寶山玻璃廠ニ於ケル海軍所在地ニ於ケル軍事練習  
及之ニ到ル迄ノ特定道路通行(豫テ海軍側ノ希望シ居  
ルモノ)

(二)現在話合出來居ル北部越界路地域内ニ於ケル軍隊ノ巡  
邏、通行、訓練(右同斷)

元來支那側ハ上海ニ於ケル外國ノ駐兵ヲ否認スル建前ナ  
ルハ御承知ノ通ナルヲ以テ右(一)、(二)ト雖容易ニ受諾セサ  
ルヘキハ想像ニ難カラサルモ交渉宜シキヲ得ハ實力行使  
迄行カストモ目的ヲ達成シ得ヘキカト思ハル

四、(三)ノ要求ハ當然ナルヘク慰藉料ハ本件交渉ヲ幾分ニテ  
モ明朗ナラシムル爲斷念スルヲ可ト思考ス

ニ對スル財政負擔ヲ輕減セントスルコト其ノ一大目的ナ  
ルカ(協定案ハ越界路收入ニテ經費不足ノ場合ハ工部局、  
市政府均分負擔ヲ規定ス)日本要求ノ如キ地域ヲ背負ヒ  
込ミ財政負擔面ヲ増大スルカ如キ事態ヲ容易ニ納得同意  
スヘシトハ期待出來難ク先ツ以テ本官ト英總領事工部局  
間ニ問題紛糾シ容易ニ埒明カサルヘク

左レハトテ我方力支那側ニ對シ自主獨往スルコトハ越界  
路擴張ヲ口號トスル以上工部局ヲ道伴レニセヌコトハ筋  
違トナリ立往生ニ陥ルヘシ故ニ海軍側ノ聞北方面ニ對ス  
ル底意の希望ヲ是非共達成セントスルナラハ越界路問題  
トハ全然關聯セシメス(從テ(五)ハ放棄ス)地域のニハ(四)ノ  
範圍ニ(六)ノ行動權ヲ要求スル方交渉力三角關係化セサル  
丈ケ得策ナリト信ス

三、越界路問題ニ關聯セシムルトセシメサルトニ拘ラス前項  
ノ要求ハ尋常ノ手段ヲ以テシテハ支那側ノ到底受諾セサ  
ル所ナルハ明瞭ナリ北支トハ異リ列國還視ノ當地ニ於ケ  
ル國家トシテノ面子及國民殊ニ反動分子ノ非難攻撃ヲ豫  
想スルトキハ何人カ局ニ當ルトモ受諾セサルヘク(北部  
越界路ニ於テ百米以外ノ三角地帶ヲ越界路區ニ編入方支

五、以上海軍側ノ案モ本官ノ意見モ本犯行ノ背後ニ支那官憲  
乃至國家の團體ノ存スルコト立證セラレサル場合ヲ前提  
トセルモノナルカ交渉ノ時機ハ矢張り判決直後ヲ可トス  
ヘシ(被告等ハ必ス上訴スヘキモ夫レニハ構ハスニ)

六、要求條項決定ノ前提トシテ若シ本水兵事件ヲ特定目的ノ  
達成ニ利用シ而モ大局的日支關係ニ來スヘキ不利ヲ顧ミ  
サルモノトセハ海軍側考案ノ如キ條件モ本官ノ敢テ辭セ  
サル所又貫徹ノ爲ノ實力行使モ異議無キモ北支方面ノ情  
勢及支那側ノ對日人氣甚タ氣マヅクナリツツアル今日更  
ニ之ヲ激化シ全面ノ紛糾ヲ來サシムルコトハ切ニ避クヘ  
キ所ト思考ス尙又海軍側案ノ希望スル地面ハ北支方面ノ  
行動地域トハ比較ニナラヌ貓額大ノ地ナルモ列國ノ神經  
カ集マリ居ル當地ノコトナレハ之ニ依テ第三國ニ如何ナ  
ル影響ヲ與フヘキカモ充分考量ヲ要スヘシ就テハ中央ニ  
於テモ大局ヨリ篤ト御攻究ノ上何分ノ御訓令ヲ請フ

大使へ轉報シ北平、南京へ轉電セリ

459

昭和11年6月12日

在上海石射總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件に関し海軍側が示した上海工部局に  
対する要求事項案について

付記 昭和十一年六月、外務省作成

「中山水兵事件交渉振ニ關スル訓令案」

上海 6月12日後発  
本省 6月12日後着

第二二〇號(極秘)

往電第二〇九號ニ關シ

關係各官意見交換ノ節海軍側ハ水兵事件ニ關聯シ工部局ニ  
對シ左記三項ノ要求ヲ爲シ度キ旨話アリタリ

(一)日本人警察官ノ地位ノ向上及増員

(二)租界内排日團體ノ取締

(三)日本人ノ法律主任ヲ一名雇備セシムルコト

右ニ付テハ時間無カリシヲ以テ意見交換ニ至ラスシテ散會  
シタルカ卑見左ノ如シ

水兵事件ハ越界路上ニ起リタルモノ故工部局トシテハ當然  
ノコト乍ラ事件後特別政治部ナルモノヲ特設シ英人副總監  
ヲ主任トシ其ノ下ニ日本人警察官數名ヲ配シ専心捜査ニ努  
メタル結果兎モ角モ被疑者數名ノ檢舉ニ迄漕着ケ又之カ訴

甚タ不體裁ナルモ Assistant Advocate(現在八名何レモ支  
那人律師)ニ日本人ヲ入ルコトハ實際上便利ニモアリ  
時機ト説キ様如何ニ依リテハ必スシモ不可能ナラサルヘ  
キ見込ナリ但シ法制ニ通シ英語ニ熟達セル人物ナルコト  
ヲ必要トスルヲ以テ實際問題トシテ其ノ人ヲ得ルコト容  
易ナラサルヘシ

之ヲ要スルニ工部局ニ我方ノ勢力ヲ注入増大スルコトハ  
最望マシク常ニ心懸ケ居ル所ナルモ漸進主義ヲ以テスル  
ニアラサレハ徒ニ恐怖ヲ與ヘ市民ノ反感ヲ誘發シ而モ平  
和的ニ目的ヲ達シ得サルヘシ尤モ越界路上ニ起リタル事  
件ニ付支那側ニ對シ嚴重ナル要求ヲ提出スルニ拘ラス工  
部局ニ申入ヲ爲ササルトキハ支那側ニ於テ偏頗ナリトノ  
感觸ヲ持ツヘキモ本件ニ關シテハ我方ト協力シ居ル工部  
局ニ對シ開キ直ツテ要求條件ヲ突附ケテ腹背兩面ニ交渉  
ヲ開始スル如キ姿勢ハ不得策モ亦甚タシ故ニ前記各項及  
其ノ他工部局ニ對シテ我方ノ要望スル所ハ本件トハ密着  
セシメス適當ナル時機ニ漸進的ニ達成スル様致度シ右ニ  
關シテモ篤ト御研究ノ上御回訓ヲ請フ

支ヘ轉報シ南京、北平ヘ轉電セリ

追ニ付テモ誠意アリト認ムヘキ手段ヲ講シツツアリ勿論我  
方ヨリ犯人捜査ニ付材料ヲ供シ積極的ニ入智慧ヲ爲シ且壓  
カヲ加ヘタル結果トハ言ヘ工部局トシテハ我方ノ味方トシ  
テ努力シ居ル積リナルニ本件ニ關シ工部局ヲ市政府同様ノ  
交渉相手トシテ取扱ヒ特定ノ要求ヲ爲スノ態度ハ彼我間ニ  
溝渠ヲ深カラシムルモノニテ將來ノ爲ニモ甚タ感心出來サ  
ル次第ナリ唯我方ノ希望トシテ適當ナル時機ニ申入ヲ爲ス  
ヲ可ナリトス即チ

(一)ニ付テハ豫テ居留民間ニモ其ノ要望アリ幸ニ越界路問題  
解決ノ上ハ工部局ヨリ約八十名ノ日本人警察官カ越界路  
警察ニ出向シ其ノ補充ヲ採用スル筈ニ付其ノ節増員及地  
位ノ向上方ヲ持出スヲ適當トス

(二)ハ常ニ我方ヨリ申入レ居ル所ニシテ更ニ之ヲ嚴重要望ス  
ヘシ

(三)ニ付テハ法律主任ト言ヘハ Municipal Advocate(現在ハ  
米人)ヲ意味スルモ高給ナル本吏員ヲ二人ニ増加セシム  
ルコトハ工部局ノ内情ヨリ見テ不可能ヲ強フルモノニテ  
話ニナラサルヘク我方市參事會員ノ立候補政見トシテ内  
外有權者ニ訴ヘタル工部局ノ經費節約意見ニモ調和セス

(付記)

中山水兵事件交渉振ニ關スル訓令案

貴電第二〇三號第二〇九號及第二二〇號ニ關シ

一、要求事項ニ關シ海軍側ト打合セタル結果本件處理振ニ關  
スル根本方針トシテ「本件ハ獨立ノ問題トシテ公正ナル  
見地ヨリ之カ解決ヲ計ルベク過大ナル要求ヲナシ又ハ之  
ガ貫徹ノタメ實力ニ訴フル等不必要ニ事態ヲ荒クルハ嚴  
ニ避クルコト」ニ意見一致ヲ見タリ而シテ個々ノ要求事  
項殊ニ冒頭貴電第二〇三號ノ(四)(五)等ニ付テハ現地ノ實  
情ニ則セサルヘカラサルヲ以テ右根本方針ニ基キ更ニ貴  
地ニ於テ協議ヲ進メシムル一方詳細ハ貴官歸朝ノ際御説  
明ヲ求ムルコトニ打合セタリ

二、就テハ左記ノ點御含ノ上再應貴地海軍側ト協議ヲ進メラ  
レ成ルヘク出先ニテ成案ヲ取纏メラルルコトト致度

(イ)本事件ヲ機トシ越界路問題ノ解決ヲ促進スルコト竝ニ  
警察上ノ見地ヨリ越界路地域ノ「バウンダリー」ハ出  
來得ル限り之ヲ明確ナラシムルヲ要ストノ海軍側從來  
ノ主張ヲ考慮ニ容レ此ノ際右主張ニ適合スルカ如キ要

求ヲ出スコトハ適當ナルヘシ但シ之カ爲地域ノ著シキ擴張トナリ從ツテ越界路問題ヲ紛糾セシメ本件解決ヲ遂ケ得サルノ結果ニ導クハ面白カラス

(ロ)工部局ニ對スル交渉ニ關シテハ貴見ノ通工部局ヲ相手トシ支那側同様正面ヨリ之ヲ責メ立テ其ノ結果彼我間ニ溝渠ヲ深カラシムルハ素ヨリ取ラサル所ナリト雖モ事件カ越界路上ニ起リタル事實竝ニ支那側ニ對スル振合ニモ鑑ミ工部局ニ對シ何等ノ處置ヲ取ラサルハ均衡ヲ失スルモノト言ハサルヘカラス仍ツテ工部局ニモ(支那側ニ要求ヲ提出スルト同時ニ)大綱ニ關スル要望(例ヘハ貴電第二二〇號中ノ(一)及(二)等)ヲナシ置キ先方ノ言質ヲ得タル上ハ具体的事項(例ヘハ貴電第二二〇號中(一)ノ内容及貴官修正ノ(三)ノ要求)ニ付漸進的ニ交渉ヲナスコト

以上海軍側ト打合濟

460 昭和11年 6月30日 在上海石射總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件に関する対中要求事項の修正をめぐ

ニ、本官ハ其ノ後思案ヲ廻ラシタル結果本官案ニ依ル地域的要求事項(海軍所有地ノ軍事練習、是ヘノ通行及北部越界路地域内ニ軍隊ノ巡邏練習等)スラモ之ヲ水兵事件解決條件トシテ要求スルトキハ貫徹至難ナルヘク寧ろ水兵事件ニ引懸ケス別ニ條理上要求スル方幾分カ貫徹容易ナルヘシト考フルニ至レル次第ヲ述ヘ右(一)ノ要求事項ノ貫徹難ヲ説キタルモ海軍側ハ右地域的事項ヲ省クナラハ本事件ヲ是迄騒キ立テ乍ラ何等得ル所無シト云フコトナリ部下乃至同僚ヲ殺サレタル陸戰隊ノ「フイーリング」モ考慮スルヲ要シ且又本官案ノ如キ斷片的地域要求案ハ本件解決條件トシテノ趣旨ニ於テ海軍案ノ地域案ニ如カス(此ノ點ハ本官モ同様ニ考ヘサルヲ得ス)旁海軍案ハ地域案ハ最少限度ノ要求トシテ採用セラレ度シト言ヒ本官ハ贊成ヲ留保セリ

(三)ノ要求事項ニ付テハ會合ノ際海軍側カ「メンション」スルヲ忘レ後カラ通知アリタルモノ從テ席上之ニ關スル意見ノ交換ナカリシモノナルカ海軍側カ地域案ヲ越界路問題ヨリ引離ス考トナリ乍ラ尙(三)ノ要求ヲ爲ストキハ矢張り交渉ヲ三角關係化シ面白カラスト思考ス

り海軍側と意見交換について

上海 6月30日夜発  
本省 6月30日夜着

第二四八號(極秘)

一、第三艦隊岩村參謀長歸任ニ付去ル十九日略前回同様ノ顔觸ニテ會同シ意見ノ交換ヲ爲シタリ先ツ本官ヨリ往電第二〇九號本官ノ意見ヲ述ヘタルニ對シ海軍側ハ參謀長歸來早々部内的協議ヲ爲シタル趣ニテ大体左ノ如ク要求事項ヲ變更スルコトセル旨披露アリ

(一)北部越界路區ノ擴張要求ハ取止メ其ノ代リ閘北ニ於テ鐵道線路、虹口「クリーク」及八字橋ヨリ東行スル「クリーク」ニ依リテ圍マルル三角地帶ノ武裝兵ノ巡邏(表面巡邏ヲ要求シ支那側承諾スレハ爾後ニ於テ演習訓練ニ迄擴張スル底意ナリト云フ)

(二)右要求ヲ提出スルナラハ公安局長及分局長ノ問責ハ石射案ニ迄緩和スルモ可ナリ

(三)越界路警察ノ日本人「アツシスタント、コムミツシヨナー」ヲ「デビュテイー」ニスルコトハ從來通り

(四)其ノ他前回同様

三、右要求事項ハ追テ協議スルトシテ本官離任ニ當リ先ツ吳市長ニ對シ本件ノ容易ナラサルコトヲ印象セシムル爲日

本側ニハ「日本租界設立ノ意見サヘアリ」位ニ脅カシ置クコト必要ナルヘシト席上意見一致シタルヲ以テ去ル二十六日吳鐵城ヲ往訪シ右ノ如キ申入ヲ爲シ置ケリ

委細別ニ電報ス

北平、南京ヘ轉電シ支ヘ轉報セリ

461 昭和11年 6月30日 在上海石射總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件に対する海軍陸戰隊の強硬意見漸次

緩和について

上海 6月30日夜発  
本省 6月30日夜着

第二四九號(極秘)

往電第二四八號ニ關シ

第三艦隊岩村參謀長ハ在京中本官往電第二〇九號ハ見サリシモ海軍中央ハ之ヲ承知シ居リ多分右拙電ニ依リ「インフルーエンス」ヲ受ケ居リ水兵事件ヲ餘リ大キク取扱フ意思

ナシトノコトナリシモ要求事項ヲ如何ニ決定スヘキカニ付テハ中央トシテ未タ具體的ニ纏マリタル案ナカリキト語リタルカ強硬ナル當地陸戦隊モ岩村參謀長カ中央ノ空氣ヲ傳ヘタル爲前記往電ノ如ク幾分緩和シタルモノト推察セラル條件ニ付テハ本件判決ニ至ル迄ノ間尙海軍側ノ「フイーリング」モアリ地域的要求ハ出先トシテ往電第二〇三號海軍案以下ニ緩和セシムルコト或ハ不可能ナルヘク感セラル從テ本件ハ結局中央ニ於テ大局上ノ見地ヨリ右カ左カニ決定スルヨリ外ナカルヘシト思ハル本官歸朝ノ上更ニ卑見上申スヘキモ不取敢

支ニ轉報シ北平、南京ニ轉電セリ

462 昭和11年7月2日 在上海石射總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件の解決にわが方が重大なる決意を有する旨市長へ申入れについて

上海 7月2日午後  
本省 7月2日夜着

第二五二號

ヘシ等ノ強硬論ヲ爲ス者サヘアリ又當地陸戦隊ハ部下タリ同僚タル者ヲ殺サレ悲憤シ居ル等ノ事情モアリ自然嚴重ナル解決條件ノ提出ヲ見ルニ至ルヘシト本官ハ觀測シツツアル處斯ル場合支那側トシテハ大局ヲ考ヘ直ニ之ヲ受諾シ事件ヲ早く解決シ去ラレンコトヲ要望セサルヲ得ス豫メ此ノ點ヲ御注意シ置クモノナリト述ヘタリ

三之ニ對シ吳市長ハ西南派カ當地攪亂ヲ企テ第二ノ水兵事件ノ如キモノカ突發スル場合ノ事態ヲ考フルトキハ心配ニ堪ヘス嚴重取締ヲ講シツツアリ假ニ抗日ヲ看板ニシテ中央ニ刃向ヒ居ル西南ノ廻者カ南京困ラセノ爲日本人ニ危害ヲ加フル如キ場合ニモ責任ハ中央カ執ラネハナラヌ仕儀ニシテ從テ背後關係ノ如何ニ拘ラス水兵事件ニ付テモ責任ヲ問ハルルコトハ已ムヲ得サルモノト覺悟シツツアリ解決條件ハ合理的ノモノナラハ勿論直ニ受諾可能ナリト思ハル目下ノ支那ハ破家ノ如キ状態ニアリ南京政府始メ自分等ハ何トカシテ之ヲ繕ハンモノト努力シ居ル次第ニシテ之カ爲ニモ日本トノ親善提携ヲ衷心切望シ居ルモノナルカ此ノ破家カ堪ヘ得サル條件ヲ課セラルルトナラハ我々ハ萬事スルノミトテ現中央政府ノ對日方針カ

(1) 往電第二四四號末段ニ關シ

當日ハ地方的諸案件ニ關シ吳市長トノ最後の會談ノ意味ニテ會見シ本官ヨリ排日取締、越界路問題等ヲ話シタル外特ニ水兵事件ニ關シ

「犯行ニ關シ何人ヲモ領カセ得ル丈ケノ反證カ舉ラヌ限り法廷ハ被告人楊文道及葉海生ヲ無罪ト爲シ得サルモノト日本側ハ確信シ居リ犯行ノ性質ニ鑑ミ之ヲ嚴罰スルコトヲ先ツ以テ要求スル次第ナリ彼等ノ背後關係ハ今尙明カナラサル處之ヲ摘出スル爲慎重審理セラレ度シ尙反政府分子ノ仕業タルト否トヲ問ハス再ヒ中山事件ノ如キ出來事アルトキハ理窟無シニ一大事態ヲ展開スヘキニ付寧粵抗爭ノ此ノ際ニモアリ嚴ニ豫防手段ヲ講セラレンコトヲ要望ス

三(2) 中山事件カ假ニ反南京分子ノ仕業ナリトスルモ特ニ我海軍軍人ヲ目標トセルコトニ於テ普通ノ犯罪トハ異リタル重大性アリ從テ日本政府ハ嚴重支那當局ノ責任ヲ問フ筈ニシテ之ニ關スル申入ハ孰レ判決ヲ俟ツテ爲サルヘク本官ハ之カ衝ニ當ル暇ナク歸朝スル次第ナルカ政府部内モ例ヘハ閩北方面ニ日本租界ヲ設定シテ邦人安住地ト爲ス

一途ニ日支提携ニアルコトヲ述ヘ之カ畫餅ニ歸スル如キハ日支兩國ノ爲ニ惜ミテモ餘アリト何時ニナク昂奮ノ色ヲ爲シ居タリ

支へ轉報シ南京、北平へ轉電セリ

463 昭和11年7月10日 在上海杉原(荒太)總領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件公判における審理終了について

上海 7月10日午後  
本省 7月10日夜着

第二六五號

往電第二六三號ニ關シ

本十日ノ水兵事件公判ハ最初工部局側ニテ帶同シ來レル證人ニ對シ簡單ナル訊問ヲ行ヒタル後直ニ辯論開始ニ入り工部局「アドボケート」ハ冒頭往電法醫研究所ノ鑑定報告ヲ一々反駁シ且今日迄ノ審理ノ結果竝ニ證據物件證人ノ證言等ヲ詳細援用シ楊文道、葉海生竝ニ周社榮三名ノ罪狀明白ナルヲ主張シ三名トモ殺人罪ニ依リ處分方要求シタルニ對シ各被告辯護人ヨリ夫々被告無罪ノ主張アリ次テ列席ノ法

院檢察官ハ同シク法醫研究所ノ鑑定書等ヲ援用シテ周社榮ハ勿論楊文道、葉海生モ證據不十分ナリトテ無罪ノ意見ヲ述ヘタリ(法院協定第五條第二項參照)  
最後ニ裁判官ハ辯論終結及來ル十七日午前九時判決言渡ヲ爲スヘキ旨ヲ宣シ閉廷セリ  
冒頭往電ノ通り轉電、轉報セリ

464 昭和11年7月(11)日 在中国川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件に対して不公平な判決を下さないよう  
中国側へ注意喚起方南京總領事宛訓令について

上海 發  
本省 7月11日夜着

第五二五號(極秘)

本使發南京宛電報

第一九〇號

上海發大臣宛電報第二六六號ニ關シ

我方トシテハ本件犯人カ楊文道、葉海生及周社榮等ナルコトハ工部局「アドボケート」ノ根據アル主張及從來ノ裁判

ノ經過其ノ他諸般ノ事情ヨリ見テ萬間違ナシト考ヘ居リ當方面内外人モ同様ノ觀察ヲ爲シ居ルニ拘ラス支那側檢察官ハ薄弱ナル根據ニ依リ無罪ヲ主張シ居ル處上海發大臣宛電報第二六七號ノ如ク又復在留邦人ニ對スル此ノ種「テロ」的殺人行爲カ發生セル事情等ヨリ見テ右我方ノ考ハ益々根據着ケラレ居ル次第ナルニ付テハ貴官ハ張部長等ニ對シ前記ノ事情ヲ説明セラレ萬一來ルヘキ十七日ノ判決ニ於テ無罪ヲ言渡ス等不公平ナル判決ヲ下スカ如キコトアラハ我方一般ニ對シ本件背後ニハ支那側官憲ノ「バック」アリトノ印象ヲ與ヘ本件ハ忽チ兩國間ノ重大ナル政治問題化スル次第ニシテ兩國關係ノ前途上憂慮ニ堪ヘサル旨ヲ強調セラレ國民政府當局ニ於テ充分善處スル様深甚ノ注意ヲ喚起セラレ度シ尙上海ニ於テモ杉原ヨリ吳市長ニ同様申入ノ筈又上海發大臣宛電報第二六七號邦人殺害事件ニ關シテハ杉原ヨリ市政府ニ申入濟ナルモ貴方ニ於テモ國民政府當局ニ對シ犯人ノ至急探查方並ニ邦人ノ生命財産保護方ニ付充分手配方御申入相成度シ  
大臣、北平、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州、廈門  
ハ轉電シ上海ヘ轉報セリ

465 昭和11年7月11日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件につき公正な判決が下るよう高宗武  
へ注意喚起について

南京 7月11日後發  
本省 7月12日前着

第四八六號

本官發支宛電報

第五〇〇號(極秘)

貴電第一九〇號ノ御趣旨ハ何レ張群ニ委細申入ノ筈ナルモ本十一日不取敢高宗武ニ嚴重申入レタル處高ハ張群ニ於テモ特ニ上海發大臣宛電報第二六七號ノ件ニ付心配シ居ル旨ヲ述ヘ早速萬般手配スヘシト答ヘ居タリ  
冒頭貴電ノ通り轉電、轉報セリ

466 昭和11年7月(14)日 在上海杉原總領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件公判で無罪判決が下った場合の措置  
振りに関する海軍案について

第二七九號(至急、極秘)  
往電第二四八號ニ關シ  
十七日ノ判決言渡モ目睫ニ迫レルヲ以テ被告カ無罪放免トナル場合ヲモ豫想シ豫メ其ノ際執ルヘキ措置ニ付十三日海軍側ヨリ岩村參謀長、佐藤武官、近藤司令官等大使館ヨリ若杉參事官、堀内總領事當館ヨリ本官並ニ寺崎參集シ協議スル所アリタルカ其ノ際海軍側ヨリ假ニ討議ノ基礎トシテ提示セル原案(參謀限リノ案ニシテ未タ上司ノ決裁ヲ經サルモノ)左ノ如シ  
(一)擴大特別區ニ自主的ニ陸戰隊巡邏兵(差當リ拳銃、棍棒ヲ携行スルニ止ム)ヲ巡邏セシム  
海軍側ハ本項ハ外務側ノ贊否如何ニ拘ラス必ス實行スル決意アル旨述ヘタリ尙擴大特別區トハ  
(イ)冒頭往電一ノ(一)ノ三角地帶  
(ロ)萱生殺害ノ犯行ノ行ハレタル地點附近ノ支那街若干  
(ハ)ニハ既ニ巡邏ヲ實行シ居レリ  
(ニ)「スコット」路ノ裏側一帯(ロハ左迄大ナル地域ニア

罪ノ意見ヲ述ヘタルコトニ對シテハ心外ニ感シ居ル次第ナル旨ヲ述ヘ且本件ニ關シ我方特ニ直接ノ被害關係ニアル陸戰隊カ今日迄難キヲ忍ヒ肅々トシテ冷靜ナル態度ヲ以テ臨ミ來レルハ工部局側カ今日迄ニ蒐集セル有力ナル物的並ニ人的證據ニ依リ必ス公正ナル判決カアルモノト期待シ居リタルカ爲ナルニ(陸戰隊司令官ハ當方トモ打合ノ上十一日兪鴻鈞ヲ往訪シ支那側カ本件ニ關シ不正ナル判決ヲ下スカ如キコトアラハ今回ノ邦人暗殺事件等モアリ陸戰隊トシテハ居留民保護ノ職責上到底默過スルヲ得ス結果如何ニ依リテハ其ノ獨自ノ立場ヨリ必要ト認ムル措置ヲ講スルコトアルヘキ旨嚴重警告ヲ發シタル經緯アリタルニ依リ右陸戰隊司令官ノ警告ヲ援用シ今日迄前記ノ如キ態度ヲ持シ來リタル陸戰隊側カ斯ル態度ニ出テタルコトハヨクヨクノコトナル旨ヲ附言ス)

萬一法院カ右日本側ノ期待ヲ裏切ルカ如キ判決ヲ下スカ如キコトアラシカ其ノ結果ハ頗ル重大且憂慮スヘキ事態ヲ生スヘキコト必然ナルニ付支那側ニ於テハ本件ノ重大性ヲ明瞭ニ認識シテ遺憾ナカラシムル様セラレ度ク此ノ際特ニ支那側ノ深甚ナル注意ヲ喚起スル次第ナリト述ヘタル處訖

ラス委細中央海軍側ヨリ御聽取相成度シ)

(二)右巡邏ノ實行ヲ通告ス

(三)工部局ヲシテ上訴セシム

(四)工部局調査ノ諸資料其ノ他ヲ利用シ被告カ有罪ナリトノ印象ヲ與フヘク新聞紙上ニ宣傳ス

(五)聲明書發表内容等ニ付テハ關係各部ト打合ノ上決定ス以上ノ内一ヲ除キ問題ナク意見一致セルモ(四)ノ如キハ十三日記事解禁ヲ行ヒ或程度迄宣傳ヲ開始セリ)(一)ハ之ヲ實行ストセハ特ニ停戰協定トノ關係ヲ如何ニ取扱フヘキヤニ付相當議論アリタルカ結局

(イ)在留邦人保護ノ絶對的必要ヨリ自衛權ノ發動トシテ行フモノナル建前ヲ執ルヘキモ停戰協定トノ關係カ問題トナリタル場合如何ナル説明ヲ加フヘキヤニ付テハ尙研究ヲ要スト云フコトニ落着キ

(ロ)巡邏ノ通告ヲ何人ニ對シテ爲スヘキヤ又ハ通告ヲ爲スノ可否ニ付テモ相當議論行ハレタルカ結局停戰協定關係委員ニ對シテハ通告ヲ爲サス單ニ支那側ニ對シ總領事ヨリ市長ニ通告(陸戰隊ヨリ總領事ヘノ報告ヲ支那側ニ通達スルノ形式ニ於テ)スルコト然ルヘシトノ意見ニ一致セ

リ

前記(一)ニ對スル卑見追電ス右不取敢  
支ヘ轉報シ北平、南京ヘ轉電セリ

467 昭和11年7月14日 在上海杉原總領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件につき公正な判決が下るよう市政府  
側へ注意喚起について

上海 發  
本省 7月14日前着

第二八〇號

支發南京宛電報第一九〇號ニ關シ

本官本十三日午後市政府ニ市長代理兪鴻鈞(吳市長ハ猶滯寧中)ヲ往訪シ中山事件ニ關シ近ク法院ノ判決言渡アルヤニ聞及ヒ居ル處從來我方ニ於テハ本件真相糾明ニ付支那側法院並ニ公安局等ノ積極的努力カ足ラサリシトノ感觸ヲ受ケ居リ此ノ點ニ付頗ル不滿ヲ感シ居タル所ナルカ更ニ法院附屬法醫研究所ノ鑑定書ニ付テモ工部局側意見ノ通り首肯シ得サル點多々アリ又先週ノ公判廷ニ於テ法院檢察官力無

市政府側カ當初ヨリ本件犯人ノ搜查並ニ葉海生逮捕後ノ證據ノ蒐集等ニ付如何ニ苦心シ努力シ來リタルカヲ縷々辯明シタル上市政府側ニテハ實ハ工部局側ニ於テ法院ニ提出セル證據ト矛盾セル材料ヲ有シ居ルモ右材料ヲ法院側ニ提出スルコトハ原告側ニ不利ナルヘシトノ特別ノ考慮ヨリ態ト差控ヘ居レリト述ヘ又今日迄司法權ノ獨立上遠慮スヘキニ拘ラス屢々法院側ニ本件ニ付注意喚起ヲ爲シタル次第ナルカ法院側ニ於テモ必ス公正ナル判決ヲ下スヘシト信スルヲ以テ日本側ニ於テモ冷靜ニ判決ヲ待タレ度ク本件ノ爲ニ日支間大局ニ惡影響ヲ及ホスカ如キコトナキヲ希望ス本日貴官申越ノ次第ハ早速滯京中ノ吳市長及中央政府ニ報告スルト共ニ更ニ法院側ノ注意ヲ喚起スヘシト答ヘタリ

冒頭往電ノ通り轉電、轉報セリ

468 昭和11年7月15日 在上海若杉總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件公判で無罪判決が下った場合の海軍  
側措置振り案につき意見具申

上海 7月15日後発  
本省 7月15日夜着

第二八八號(大至急、極秘)  
往電第二七九號ニ關シ

右往電海軍側原案ニ對スル卑見左ノ通り稟申ス  
、當方面最近ノ空氣及在留邦人ノ生命ニ對スル一般の不安  
ノ存在ハ往電第二八七號ノ事情ノ通ニシテ右現實ノ事情  
ヲ前提トシテ考フルトキハ海軍側案ノ通り邦人ノ密集地  
域又ハ之ニ隣接スル地域タル所謂擴大特別區間ノ巡邏ヲ  
實行スルコトハ在留邦人保護ノ必要上已ムヲ得サル措置  
ナリト思考ス

、然レトモ右實行ニ當リテハ支那側特ニ民衆ニ對シ不必要  
ニ恐怖ヲ與フルカ如キコトナカラシムル方法ヲ採ルコト  
必要ニシテ客年中山事件發生當時ノ支那側民衆ノ大動搖  
及之カ日本人側ニ及ホシタル影響ノ例ニ見ルモ此ノ點ニ  
付テハ細心ノ注意ヲ拂フノ要アリ又日本人側自身ニ付テ  
ノミ考フルモ人心ノ動向及其ノ營業等ニ及ホス影響ヲモ  
充分考慮シテ其ノ方法ヲ慎重ニスルノ要アリ若シ其ノ方  
法ヲ誤ラハ結果ハ却テ治安維持及邦人保護ノ目的ニ背馳

リ)

四、本件巡邏ノ實行ヲ支那側ニ通告スルノ可否ニ付テハ其ノ  
後モ篤ト考量ヲ重ネタル處本官ノ意見ハ寧ロ支那側ニハ  
(共同委員會ニハ素ヨリ)通告セサルヲ可ナリトノ考ニ傾  
キタリ其ノ主タル理由ハ

(イ)正式ニ通告ストセハ假令支那側自身ニ於テ本件措置ハ  
目下ノ事情已ムヲ得スト内心認メテモ面上又國民ニ  
對スル手前上沈黙シテ居ル譯ニ行カサルヘク  
(ロ)前記ニノ趣旨トモ關聯シ成ルヘクソツト事實上遺ルコ  
ト得策ナルヘシ

トノ點ニアリ實ハ既ニ發生事件發生地附近ノ華街ニ事實  
上巡邏シ居レルモ支那側ヨリハ今日迄何トモ言ツテ來ス  
又一般民衆モ敢テ怪ム模様ナキ狀態ナリ(本項通告ノ可  
否ニ付テノ右本官意見ハ未タ海軍側全部ニ通シ居ラサル  
モ昨十四日來訪ノ陸戰隊次席參謀ニ話シタルニ同參謀ハ  
同意見ナリキ)

、以上各點及冒頭往電ニ關シ何分ノ儀折返シ御回示ヲ請フ  
大使館側ニ話濟  
冒頭往電ノ通り轉電轉報セリ

スルカ如キ事態ヲ誘致スルノ惧ナシトセス依テ陸戰隊ノ  
行動ハ此ノ際嚴ニ原案通り巡邏ニ限り而モ巡邏兵ノ各組  
ハ極メテ少數ノモノヨリ成リ又少クモ當分ハ精々棍棒及  
拳銃位ヲ携帯セシムルニ止ムルコト適當ニシテ要ハ方法  
ノ點ニ付テハ不必要ニ大袈裟ナル形ヲ取ラサルコト肝要  
ナリト信ス

三、停戰協定トノ關係ニ關シテハ右巡邏ハ居留民保護ノ絕對  
必要上自衛の行爲トシテ爲スモノナルカ本協定ノ拘束外  
ナリトノ建前ヲ執ルヨリ外ナカルヘク唯今日迄我方ハ支  
那側ニ對シ本協定ノ最嚴格ナル履行ヲ要求シ來レル關係  
モアリ支那側ニ於テ或ハ他國ノ委員等ヲモ道連トシテ本  
協定ヲ援用シテ文句ヲ言ツテ來ルコトハ豫想シ得ル所ナ  
ルカ其ノ場合前記ノ趣旨ヲ以テ應酬ストセハ實際上今後  
支那側ニ對シ本協定違反ノ口實ヲ與ヘ易ク又今日迄我方  
カ第三國委員ニ對シテモ強ク主張シ來レル本協定ノ力ヲ  
多少弱メルノ惧ナキニアラサルモ此ノ點ハ本案ヲ實行ス  
ル以上已ムヲ得サル隨伴の結果ニシテ夫レカ爲ニ本案ノ  
實行自体ヲ左右スル程ノコトニアラスト考フ(停戰協定  
トノ關係ノ議論ハ我方ヨリ進ンテ遺ルノ要ナキハ勿論ナ

469

昭和11年7月15日

在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件につき公正な判決が下るよう適切措  
置方外交部へ申入れについて

南京 發

本省 7月15日夜着

第四九七號

本官發支宛電報

第五一二號

貴電第一九四號ニ關シ(中山水兵事件)

本十五日館員ヲシテ陳介ニ對シ本件無罪トナル場合生スル  
コトアルヘキ重大ナル結果ヲ指摘シ有罪判決方如何ナル程  
度迄手配進行シ居レリヤト突込ミタルニ陳ハ司法權ノ獨立、  
裁判ハ事實ヲ基礎トスル點等ニ鑑ミ結果ハ素ヨリ豫斷シ難  
ク又司法行政部ニ於テ本件ニ關シ執レル處置ニ付テモ明言  
シ難キカ外交部トシテハ充分日本側ノ御趣旨ニ副フ様盡力  
シ居ル次第ニテ「多分何トカナルテセウ」ト相當自信アリ  
氣ニ答ヘタルニ付館員ヨリ判決餘日モ鮮キニ付此ノ上トモ  
努力方更ニ駄目ヲ押シ置キタル趣ナリ

大臣、北平、在支各總領事、厦門へ轉電セリ  
上海へ轉報アリタシ

470 昭和11年7月16日 有田外務大臣より  
在上海若杉總領事宛(電報)

中山事件に関する対中要求事項につき訓令

本省 7月16日發

第一一三號(大至急、極秘)

中山事件ニ關シ支那側ニ對スル要求事項ニ付石射總領事ヲ加ヘ海軍側ト協議ノ結果左記事項ヲ提出スルコトニ決定セリ就テハ貴地海軍側ト打合せノ上有罪ノ判決アリタル場合ハ直ニ支那側ニ對シ左記一、ノ要求ヲナシ右ト同時ニ工部局ニ對シテモ往電第九七號ノ要望ヲナスト共ニ我方對支要求案ノ趣旨竝内容ヲ十分説明シ了解ヲ求メ且其ノ貫徹方ニ付支援ヲ求メラレ度

ニ被告有罪ノ判決アリタル場合ノ要求事項

(一)責任者ノ謝罪

(イ)吳市長ノ陳謝

(ロ)公安局長及警察署長ニ對シテハ總領事館及海軍側ニ

決ヲ期セラレ度

南京、北平へ轉電セリ

支へ轉報アリ度

471 昭和11年7月16日 在上海若杉總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件公判の審理延長に関する工部局よりの情報について

上海 發  
本省 7月16日後着

第二九三號(至急、極秘)

往電第二八五號ニ關シ

十六日午前「ブライアン」ハ寺崎ニ對シ今朝午前六時法院裁判官三名ハ會議ヲ行ヒタル結果同七時自分(「ブ」)ノ部下ナル汝「アシスタント、アドボケート」ニ對シ十七日ハ判決ヲ行ハス審理ヲ續行スヘキ旨(此ノ點ハ公判廷ニ於テ發表セラルル豫定)及「浦巧英」ナル支那婦人ハ中山兵曹ノ屍骸ヲ最初ニ見且犯人カ逃走セルヲ目撃セル者ニシテ證人トシテ出廷ヲ要求スル必要アルコト及「犯罪動機未タ明瞭ナ

出頭陳謝ノ程度トス

(二)越界路地域ノ擴大ヲ要求ス(貴電第二〇三號ノ二ノ四)

但シ交渉狀況ニ依リテハ先ツ石射案ニ依ル越界路區ノ問題(警察ヲ含ム)ヲ即時解決スルコトトス。右以上ノ擴大地區ノ要求(日本人副總監一名増加ヲ含ム)ハ必ス

シモ一舉ニ全体ノ解決ヲ強行セサルモ成ルヘク速ニ實現ヲ期ス

(三)排日取締ノ勵行

(四)連累者ノ迅速逮捕及嚴罰

尙武裝兵ノ進出ハ停戰協定ニ鑑ミ此ノ際ノ要求トセサルコトトセリ

ニ無罪ノ判決アリタル場合ニモ前記一、ノ要求ヲ提出シ且ツ上告ノ手續ヲ取ルト共ニ支那當局ノ措置ニ對シ不滿ノ意ヲ表シ其ノ善處方ニ關シ嚴重警告ス尙巡邏隊ノ派出ハ停戰協定ノ關係モアリ自衛上必要アル場合ニ限ルコトトス三、前記一、(二)越界路地域擴大ノ要求ハ最近ノ事態ニ鑑ミ特ニ要求トナセルモ右ヲ要求スルコトニ依リ石射案ニヨル妥結ヲ妨クルコトハ本意ニ非ルニ付交渉次第ニヨリ地域擴大ノ實現ハ暫ク遷延スルトモ先ツ石射案ニヨリ速時解

ラサルコトカ其ノ理由ナルコトヲ告ケタル趣ナルカ右ハ表面ノ理由ニテ實際ハ今朝ノ會議ニ於テハ裁判官ノ間ニ相當激論行ハレタルモノノ如ク遂ニ意見ノ一致ヲ見ルニ至ラサリシコトカ眞ノ原因ナルヘシト内話セル趣ナリ  
冒頭往電ノ通り轉電、轉報セリ

472 昭和11年8月5日 在上海若杉總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

再開された中山事件公判の模様につき報告

上海 8月5日後發  
本省 8月5日夜着

第三二九號

往電第三一七號ニ關シ

本五日午後開廷セラレタル中山事件公判ハ大體本件犯行ノ動機並ニ被告楊文道等ノ過去ニ於ケル閱歷調等ニ終始シタルカ裁判長カ豫テ工部局側ニ於テ作成シ法院側ニ提出中ノ「本件犯行動機ニ關スル調書」(往電第一六一號參照)ニ依リ楊文道ニ關シ  
(イ)上海事變當時ノ抗日決死隊組織ノ有無

(ロ) 汪精衛暗殺團首領王亞樵トノ關係  
(ハ) 福建革命參加ノ有無

(ニ) 汪精衛、蔣介石並ニ日本海軍軍人暗殺計畫ノ有無  
等ニ付詳細ナル訊問ヲ各被告ニ就キ別個ニ爲シタル處楊文  
道ハ一時東北義勇軍第五十五軍ノ參議トナリタル點ヲ除キ  
他ハ全部之ヲ否認シ葉海生ハ曩ニ工部局ニ於テ爲セル供述  
ハ警察ノ拷問ニ依リ已ムヲ得ス爲シタルモノニシテ事實ニ  
アラスト述ヘ周社榮モ全然知ラストテ凡テ否認セルカ裁判  
官ハ汪精衛暗殺犯人ハ目下南京法院ニ於テ取調中ナルニ付  
本件被告三名ノ寫眞ヲ南京ニ送付シテ汪暗殺犯人カ本件被  
告ヲ知り居ルヤ否ヤヲ確ムルコトスヘク又問題ノ楊文道  
ノ書籍中ノ指紋ニ付法醫研究所ニ於テ再調査中ナレハ右結  
果ノ判明スル迄審理ヲ延期スル旨ヲ宣シテ閉廷セリ(次回  
公判期日ハ未定)

尙裁判長ハ被告側辯護士ノ請求ニ對シ冒頭往電楊建中ノ召  
喚取調ヲ爲スコトハ本件審理上特ニ必要ニアラストノ意見  
ヲ述ヘタリ

南京、北平ニ轉電シ支ヘ轉報セリ

シ何レモ取調中ナリシ處

(イ) 朱及陳カ各別ニ自供スル所ニ依レハ右兩人ハ萱生事件  
ニハ關係ナキモ中山事件ノ連累者ニシテ本件ノ指揮者  
及拳銃提供者ハ張玉華、直接下手人ハ石鳳亭(目下楊  
州ニ潜伏中)ナル者ナリ

(ロ) 金ノ自供スル所ニ依レハ同人ハ萱生事件ノ連累者ニシ  
テ直接下手人ハ劉老四(楊州ニ潜伏中)指揮者ハ華克之  
(鎮江ニ潜伏中)ナリ

(ハ) 前記朱、陳、金ノ三名ハ華克之ヨリ生活費ヲ支給セラ  
レ居リ又華ハ王亞樵ノ一味ナリ

公安局ハ前記潜伏中ノ四名(王ヲ含ム)ヲ逮捕スヘク極  
力捜査中

(ニ) 張玉華ヲ朱、陳、金三名ニ對決セシメタルモ張ハ以上  
三名ヲ知ラスト稱シ口ヲ割ラス

右ニ對シ北村ヨリ萱生事件ハ兎モ角トシ中山事件ハ法院  
ニ於テ確實ナル物的證據ト犯人ノ自供ニ基キ折角審理ヲ  
續行中ナルヲ以テ公安局ニ於テモ被疑者ノ單ナル自供ノ  
如キハ俄ニ信スル能ハス又何等物的證據ナク單ナル被疑  
者ノ自供ニ基キ先入主的ニ犯人ヲ造り出スカ如キコトナ

473 昭和11年8月26日 在上海若杉總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件公判審理の引延ばし策とも見られる  
公安局による事件連累者の起訴について

上海 8月26日後発  
本省 8月26日夜着

第三五八號  
往電第三四六號ニ關シ

ハ公判開廷方ニ付テハ工部局汝(「ブライアン」ハ目下本邦  
ニ休暇滞在中)ヨリ法院ニ對シ再三督促ノ次第アリタル  
處二十五日法院側ハ汝ニ對シ公判ハ今週中(多分土曜日)  
ニ開廷スヘク右公判ヲ以テ審理ヲ終結スヘキ豫定ナル旨  
語リタル趣ナルカ汝ノ見込ニ依レハ恐ラク九月上旬判決  
アルヘント考ヘラルル趣ナリ(以上工部局上原情報)

ニ然ルニ二十六日公安局第三課長黃華カ當館警察部長北村  
ニ語ル所左ノ如シ

現在公安局ニ於テハ密告ニ基キ逮捕セル萱生事件被疑者  
朱貴生、陳恩明、金道權(ノ三名並ニ汪精衛暗殺ノ被疑  
者トシテ南京ニ於テ逮捕セラレタル張玉華ヲ當地ニ押送

キ様嚴重申入レシメ置キタリ

ニ公安局ハ朱及陳ヲ特區法院ニ起訴スル趣ナルヲ以テ自然  
一ノ次第ハアルモ本件判決ノ期日ハ延引セラルルヤニ察  
セラル

黃課長前記ニノ通報ハ支那側ノ判決延引策ト考ヘ得ヘク  
將又朱、陳、金三名ノ自供ナルモノモ絡繰ニ基クモノト  
モ考ヘ得ヘキヲ以テ嚴重(注視)中ナリ右不取敢

南京、北平ニ轉電シ、支ヘ轉報セリ

474 昭和11年9月7日 在上海若杉總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件の公判終了を待つことなく直ちに中  
国側との解決交渉開始方意見具申

上海 9月7日後発  
本省 9月7日後着

第三八〇號

中山兵曹事件ハ從來貴電第一一三號御訓令ニ依リ判決直後  
交渉開始ノ方針ニテ今日迄其ノ判決ヲ待チ居リタル次第ナ  
ル處其ノ後本件審理ノ經過ニ徴シ既ニ我方及工部局側ノ證

據等我方ノ主張ヲ支持スルニ充分ナルニ拘ラス支那側ニ於テハ種々遷延策ヲ弄シツアル實情ナルヲ以テ此ノ上法院ノ判決ヲ待ツハ徒ニ其ノ遷延策ニ乗セラルルノミニテ何等我方ニ實益ナカルヘク且本件ニ對スル我方ノ要求條件ハ既ニ御訓令ニ依リ確定シ居ルノミナラス貴電第一一五號御訓令ノ通り本件ハ裁判ノ結果如何ニ拘ラス政治的見地ヨリ支那側ノ責任ヲ問ハントスルモノニシテ殊ニ今次成都事件ニ關スル大使宛貴電第二二五號ノ(二)ノ(ハ)ノ次第モアリ旁此ノ際判決ヲ待タスシテ本件ヲ成都事件ノ交渉ト同時ニ南京及當地ニ於テ並行シテ交渉ヲ開始スルヲ適當ト思考ス(南京ニ於テハ原則的ニ本件ノ即時解決方ヲ申入ルルト同時ニ具體的ニハ當地ニテ交渉ヲ開始スル意ナリ)

右ニ關シテハ當地海軍側ヨリモ判決ヲ待ツコトナク南京及上海ニ於テ交渉ノ並行開始方中央ニ對シ具申セル趣ナリ尙釐生事件ハ引續キ犯人捜査中ニテ未タ支那側ノ責任ヲ問フニ充分ナル段階ニ達セサルヲ以テ中山事件ト同時ニ此ノ際交渉ヲ開始スルハ必スシモ我方ニ取り得策ニアラサルヘキニ付本件ハ南京及當地ニ於ケル中山事件交渉ノ際原則的ニ本件ヲモ同一原因タル排日ニ基因スル一事件トシテ言及

シ其ノ具體的解決要求ハ後日ニ留保スル旨ノ申入ヲ爲ス程度ニ止メ置ク方然ルヘシト思考ス  
右諸點ニ關シ何分ノ儀折返シ御回電ヲ請フ(以上大使、海軍武官及第三艦隊參謀長ト協議濟)  
支ヘ轉報シ南京、北平ヘ轉電セリ

475 昭和11年9月11日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

中山事件公判の迅速進行につき張群へ措置方  
要請について

南京 9月11日前発  
本省 9月11日前着

第六六八號

上海宛貴電第一四〇號ニ關シ

本十一日會見ノ際張群ニ對シ排日策動ノ結果生シタル中山事件及釐生事件ニ付支那側從來ノ措置振ニ充分ナラサル點鮮カラス特ニ中山事件ノ裁判ノ進行ハ餘リニモ遅タリ或ハ支那側カ本件ノ如キ重要案件ヲ徒ニ遷延セシメ居ルモノトモ觀ラルル程ナル處斯テハ日支時局相當緊張シ來レル此

ノ際誠ニ面白カラサルカ故裁判進行促進方至急手配アリ度

シト申入レタルニ張ハ本件ニ付テハ外交部トシテハ萬全ヲ盡シ居リ特ニ法律家タル徐謨並ニ高宗武等ヲ數回司法行政部ニ派シ夫レトナク促進セシメタル經緯アルモ御趣旨ニ依リ更ニ手配スヘキカ何シロ司法獨立ノ原則モアリ困難モアル點ハ了承アリ度シト述ヘ更ニ同席ノ高宗武ハ此ノ種事件ニ付テハ普通判事一人ヲシテ受持タシムルモ外交部ノ督促モアリ特ニ三名ニテ審理ヲ急キ居ル實狀ナリト辯解シ居タルカ本官ヨリ手續ハ兎モ角既ニ工部局側モ特ニ本件ノ判定ヲ期待シ居ル所ナレハ至急決定方強ク申入レ置キタリ

上海、北平ヘ轉電セリ

上海ヨリ支ヘ轉報アリタシ

476 昭和11年10月2日 在上海若杉總領事より 有田外務大臣宛(電報)

中山事件の判決言渡しについて

上海 10月2日後発  
本省 10月2日後着

第四五一號(至急)

往電第四四六號ニ關シ

法院ハ本二日午後二時楊文道、葉海生ハ夫々死刑周社榮ハ無罪ノ判決言渡ヲ爲セリ

支ニ轉報シ在支各總領事、北平、厦門ヘ轉電セリ

477 昭和11年10月2日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

中山事件判決後における民心鎮靜方につき外  
交部へ措置振り確認について

南京 10月2日後発  
本省 10月2日夜着

第七七八號

本官發上海宛電報

第三七號

大臣宛貴電第四五〇號ニ關シ

本二日本官ヨリ陳介ニ對シ冒頭貴電ノ趣旨ヲ申入レタル處陳ハ三十日上海ニ於テ吳鐵城ニ對シ過去一週間程中山事件判決ニ關シ政治的ノ考慮ヨリ外交部カ司法行政部ト折衝ノ經過ヲ述ヘ愈死刑ノ判決アル場合ニ於テハ上海學生團體其

ノ他カ行動ヲ起ス危険モアルニ付充分手配方申入ルルト共ニ杜月笙、王曉籟等ノ上海巨頭連ニ對シテモ市政府ノ前記警備ト併行シテ人心鎮壓ニ協力方依頼シ置キタル一方養生事件ノ犯人ニ付吳鐵城ヨリ證據充分ナル旨ノ陳述アリ又海寧路事件ニ付テハ五千元ノ懸賞ヲ以テ犯人訴追ニ努メ居ル等當局ハ銳意事態ノ鎮靜ニ當リ居ル旨各方面ヨリ報告モアリトテ支那側ノ苦心ヲ了解アリ度シト述ヘタル上二名ノ死刑ニ付テハ或ハ控訴等ノ事モアルヘキモ先ツ日本海軍側モ本判決ニ満足セラルヘシト述ヘ如何ニモ此ノ上ノ日本側要求ハ期待セサルカ如キ口吻ニテ縷々説明セルニ付本官ヨリ繰返シ三事件ヲ一括考慮ノ上要求ヲ提出スヘキ旨念ヲ押シ置キタリ

大臣、北平ヘ轉電セリ

支ヘ轉報アリタシ

478

昭和11年10月3日

在上海若杉總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中山事件に鑑み日本人警察官の増加等を工部局へ要望について

ル處「ア」ハ之ヲ了承シ直ニ警視總監「ゼラード」ト協議スヘシト答ヘタリ

尙其ノ際「ア」ハ越界路地域ニ於ケル工部局警察官ト支那側警察トノ權限爭議及工部局財政上ノ理由等ニ依リ數年間懸案トナリ居ル越界路地域問題ヲ速ニ解決シ度キ處日本側ニ於テ右解決ヲ困難ナラシメ居ル電話問題ヲ速ニ解決又ハ

第四五四號

往電第四五二號ニ關シ

本三日本官工部局市參事會議長「アーノルド」ヲ訪問シ

(一)中山水兵事件ニ關スル工部局司法警察當局ノ多大ノ努力ニ對シ謝意ヲ表シ

(二)中山事件ハ第一審ノ判決ハアリタルモ本件ハ最近ノ水兵三名殺傷事件ト關聯シテ考慮ノ必要アルヲ以テ未タニ終結セルモノトハ考ヘ居ラス

右二件ニ對スル要求ハ追テ政府ノ訓令ヲ俟テ何分ノ申入ヲ爲ス迄之ヲ留保スル旨ヲ通告シタル處「ア」ハ之ヲ了承シタルカ其ノ際序ヲ以テ本官ヨリ工部局日本警察官ノ優秀ナル成績ハ中山事件ニ於テモ充分證明セラレタル處今回ノ水兵事件ニ鑑ミルモ虹口其ノ他多數日本人ノ居住區域ニ於ケル工部局警察官ノ配置手薄ノ爲在留邦人カ絶エス生命財産上ノ脅威ヲ感シ居ル事情モアルニ付此ノ際日本人警官ノ増加及一層權限多キ地位ニアル上級警察(官)ノ配置等日本居留民一般ノ要望モアルヲ以テ右實現方希望スル旨申入レタ

取除ケ一日モ早く石射總領事トモ協議濟ノ同地域協定案ヲ支那側ト調印シ得ル様斡旋方希望セルニ付我方ニ於テモ本件考慮ノ上追テ回答スヘキ旨答ヘ置ケリ(本件ニ付テハ水兵事件ニ對スル我方ノ要求條件ノ取扱方トモ關聯スルヲ以テ本日午後海軍側ト要求條件攻究ノ際考慮ノ筈)

支ヘ轉報シ南京、北平ヘ轉電セリ

上海 10月3日後発  
本省 10月3日夜着